

東京  
肝臓のひろば

令和7年(2025年)8月号 第267号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

〒161-0033 東京都新宿区下落合4-27-5-201  
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564  
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会  
http://www.tokankai.com



最上川 白糸の滝 ~山形県・戸沢村~ 切り絵・佐藤廣士さん

ラジオNIKKEI 第1 **大人のラヂオ**

※2024年6月14日放送

**肝臓がんの診断と治療について**

ゲスト

大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学教授 (放送当時)  
**河田則文先生**

進行

東京肝臓友の会 **米澤敦子**

## ◆河田先生のこと

米澤 大阪公立大学  
大学院医学研究科  
肝胆膵病態内科学教授

授(放送当時)の河田則文先生をゲストにお迎えしてお送りします。

3月に京都で開催されたアジア太平洋肝臓学会(APASL)で、椎名先生から市民公開講座の企画を依頼されたときに、河田先生に講演とパネルディスカッションをお願いいたしました。そのときのお話がとても素晴らしかったので、ラジオへのご出演をお願いして、今日はわざわざ大阪から来ていただきました。

河田先生のプロフィールをご紹介します。1959年、京都府のご出身で、1986年に大阪市立大学医学部を卒業後、ドイツのフライブルグ大学生化学研究所、大阪市立大学教授、大阪市立大学医学部長、大阪公立大学医学部長

等を経て、大阪公立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学教授に就任されました。

ご専門は消化器内科一般で、特に肝胆膵内科を専門とされています。肝臓における星細胞の研究では世界的にも高い評価を受けておられます。主な受賞歴に、大阪市医学会上長賞、日本肝臓学会研究奨励賞、バイオビジネスアワードジャパンのバイオ先端知賞等があります。趣味は、人に会うこと、おいしいものを探すこと。座右の銘は「ユニークであること」だそうです。

今日はよろしく申し上げます。先生とはAPASL京都で初めてお会いしましたが、それまでも大阪肝臓友の会では本当にお世話になっていたり、関西地方の患者さんから先生のお噂はたくさん聞いていました。

河田 ありがとうございます。  
ございます(笑)。

米澤 いろいろな先生に、「河田先生に講演会で話していただくかないの？」とこれまでもよく言われて

いて、大阪ということもあつてなかなかお声がけできなかったのですが、やっと念願がかないまして、ラジオにもご出演いただけるといふことになりました。

まず先生の趣味は人に会うことというのですが。

河田 はい。人志向があると言いましようか、特に医学にかぎらず、いろいろな企業な方や自分がやったことのない分野で仕事をされてる方々の苦労話をお聞きしながら、おもしろいものをつつきながら食事をしてると、時間を忘れて何時間も話しているような感じで、別れるときはみなさんとLINE交換をして、その輪がどんどん広がっているんです。これが今は一番楽しいですね。ちよつと年をとつてきて、「55歳過ぎくらいからそのような人とのつながりは、自分を高

めてくれるしとても楽しい時間だなあと思つています。

米澤 臨床も研究もやつておられるので、お仕事はすごく忙しいと思ひますが。

河田 日中は教育も研究も診療も

やつて忙しいんですけどね。しかし夜にまったく違う刺激を受けられるということが、ストレス発散になつていふか、そのようにうまく循環させるようにしてします。

米澤 「ユニークであること」といふ座右の銘についてはいかがでしょうか。

河田 他人の真実はあまりしたくないですね。海外の友人もたくさんいてノリと呼ばれているのですが、「ノリは日本の他の先生とまったく違うね」と言つてくれるんです。「学会場でもお前のことはす

ぐ見つけられる」とみんな同じように私のことを言うんです。自分ではわからないのですが、何か独特の雰囲気を持つていふかな、ということもあつて、それは自分のキャラクタであり、他人からもそう認識されていふので、これは崩すべきではないなと思つていふし、ユニークであり続けたいですね。仕事も自分の研究分野というのを持つて、ずっと

続けたいと思つていふので、そういった意味でもユニークであることは大事にしています。洋服にも気を使うようにして、おしゃれという点でも気を使つていふ。

米澤 肝臓病の専門医の先生たちは、なかなかおしゃれな先生は……という印象があるので(笑)。時々香水をつけていふ先生もいらつしやるのですが、おしゃれでステキな先生がもつと増えるといふなあと思ひます。

河田先生はなぜお医者さんを目指されたのでしょうか。

河田 亡くなつた父親が京都市内の銀行員だったので、都会の生活にストレスを感じていふのか、胃潰瘍や十二指腸潰瘍で入院して

いたんですね。当時はH2プロックカーやPPIはまだない時代ですから、入院してはいたんです。京都府立医科大学病院に頻繁にお世話になつておりました、私が物心ついた小学生になつた頃に、父親が「医者はずごい。我々の健康を守つてくれる」と言つていて、『白い巨塔』ではないですが、教授回診の様子を克明に話してくれたんですね。それで「親父がこれだけいい仕事だと言ふなんて」と、高学年くらいでインプットされてしまいました。うちの家族は誰も医師とは関係のない仕事に就いていふんですけど、私だけは父親のそういった言葉に影響を受けたといふか。それだけ父親が言うのであれば、医学を指してみようかなと。それで中学3年生の頃には、医学部へ行こうと決めていました。単純なストー

リーなのですが、それが私が医者になるきっかけです。

父は私がちょうど教授に就任したのを見届けて亡くなったので、親孝行できたかなとは思ってますけれど。

米澤 お医者さんになられて、お父さまもお喜びだったんじゃないですか。

河田 田舎でそんなに医者が多いわけではないので、喜んでいたんじゃないかなと思います。

米澤 お父さまのご病気がきっかけで、お医者さんになられたわけですが、成績も優秀だったと思います。誰でも医者になりたいと思っでなれるわけではございませんので(笑)。先ほども話しましたが、大阪肝臓友の会でもすぐお世話になっでいて、その他にもいろいろな活動に顔を出していただいてるそうですね。

#### ◆忘れられない患者のこと

河田 私は患者さんを診断、治療をしています、十分な知識を持たずに、医者に言われるがままに治療を受けていらつしやる患者さんが多いんじゃないかと常々感じていたのと、我々の知識を一般の方にももっとわかりやすく伝えることが必要なんじゃないかと思っでいたんです。

私たちの教室をつくられた山本祐夫先生という、その分野で有名だった先生が患者教育を実践されていた先生だったんです。1970年代、80年代からやられていたという歴史があつて、私も教授になったときに、山本先生のような活動をしなないと、大阪は肝臓病が多いし、患者さんを減らさないといけないと思っでいたので、まずは肝臓病教室を立ち上げることから始めて、少しずつ大きくなつて市民公開講座をやるようになって、時には300人、400人も来場されるイベントにしていきました。そうすると医師たちも、病院でしゃべるような雰囲気ではなく、みなさんに病気についてわかつてもらおうと一生懸命話しますし、モチベーションも上がつていきました。患者さんたちも病院では話せないようなことを質問されたり、医者との信頼関係が強まるという経験を繰り返してやつてきたので、そういった意味でも大阪肝臓友の会の方々と一緒になつて、そういう活動をしていくなかで、とてもいい関係を築くことができました。

米澤 では、先生にとって特に忘れられない患者さんとの思い出ありますか。

河田 みなさん、忘れられない患者さんなのですが、その中のおひとりで肝臓がんになられて、いよいよ大学病院での治療もこれ以上できないという方がいらつしやいました。

た。いつもご家族で外来の診察にいらつしやつて、じっくり話をしていたのですが、いよいよ最後の治療を終えて、これ以上治療をしてしまうとむしろ命を短くしてしまうという段階になったときに、家族の方が、「先生、お父さんのためにすべて包み隠さず、ストレートに言つてください。そのほうが納得すると思うので」とおつしやつたんですね。それで包み隠さずに、「これ以上大学病院のようなところでの治療は、入院を延ばすだけなのでやめて、ご自宅で家族と一緒にいる時間をつくられませんか」と話したんです。したら「先生、私は十分理解しています。今日は先生との外来診療の最後の日になると思っています。先生にはお世話になつたのでぜひ握手をさせてほしい」とおつしやつていただいて、本当にうれしかったです。うれしいという表現が正しいかどうかかわからないのですが。

米澤 先生が日々きちんと患者さ

んの状況をみて言葉を尽くして説明されて、その患者さんとの信頼関係が強くて、あがっていたことが示された握手だったんだと思います。

河田 その握手を求められたときには、本当に感動しました。

米澤 私たちの電話相談でも、治療がもうできないという状況になつて医師の説明に納得がいかず、

「他にも何か治療があるのではないか？」と疑問を投げかけられる方はとても多いのですが、先生の患者さんは納得されていたんだと思います。

肝臓がんは再発を繰り返して亡くなる方が会員の方でも多く、繰り返し電話されてきた方が亡くなることもあります。患者は現状に納得していれば疑問はありませんよね。

河田 それもあつて患者さんと向

き合うときは、できるだけ率直に話すことを心がけています。外来にいらつしやつた患者さんには、苦しい思いをして帰つてほしくないんですね。だから私はできるだけ笑つて帰つていただくようにしているのです、他の外来のみなさんから、「なんで河田先生の外来は、あんなにみんな笑つてるの」と言われます(笑)。

◆「肝臓がんの診断と治療について」

米澤 それは患者にとってすごくありがたいですね。

では今日のテーマの「肝臓がんの診断と治療について」のお話に入ります。日本だけでなく世界における肝臓がんの動向や発生の状況、要因となる疾患について教えてください。

河田 日本はC型肝炎による肝が

Ahead Together

ともにその先へ

私たちはサイエンス、テクノロジー、人財を結集し  
力を合わせて病に先手を打ちます

グラクソ・スミスクライン株式会社

GSK

## PSC

## 三二講演会&amp;公開相談会のお知らせ

今回も中本先生をお招きし、PSC（原発性硬化性胆管炎）の最新の治療・研究について、今年3月の講演会では伺えなかった詳細なお話も含めて解説いただきます！

さらに公開相談会では、普段抱えている疑問・質問を先生にとことんお聞きしましょう♪  
PSCの患者・ご家族の皆さま、ご参加をお待ちしています。

日時

2025年 **10月5日(日)** 13:30~15:30

講師

中本 伸宏 先生（慶應義塾大学医学部消化器内科 准教授）

会場

東京都難病ピア相談室 渋谷区広尾 5-7-1 東京都広尾庁舎 1階

アクセス

東京メトロ日比谷線 広尾駅 徒歩3分

※1番・2番出口は階段のみ。

地図①~⑤は都バス停留所です。

要申込

電話 または web にて、  
東京肝臓友の会までお申し込みください。

電話

**03-5982-2150**

祝日を除く 火・木・金、10時~16時

Web

<https://tokankai.com/archives/5684>にアクセスして、  
申込フォームにご入力ください。  
(QRコードからどうぞ)

原発性胆汁性胆管炎(PBC)・自己免疫性肝炎(AIH)の患者交流会は、  
次の10月号にてお知らせする予定です!

お楽しみに!

東北・北海道ブロック初開催！！

# 自己免疫性肝疾患 患者交流会

**日時** 2025年**10月25日(土)** 13:30~16:00

**会場** リッチモンドホテルプレミア 仙台駅前

**会議室「桜」(5F)** (仙台市青葉区中央 2-1-1 仙台東宝ビル 5F)



## アクセス

JR 仙台駅 西口 徒歩 3 分  
地下鉄仙台駅 北 4 出口すぐ

「リッチモンドホテル仙台」と  
間違わないでね！



まさおくん  
お待ちしてます！

**対象** 東北、北海道地区にお住まいの PBC(原発性胆汁性胆管炎)・AIH(自己免疫性肝炎)・PSC(原発性硬化性胆管炎)の患者、ご家族

**申込締切** 10月21日(火) **定員** 15名 ※先着順

お申込

東京肝臓友の会まで、電話かメールにて①~⑥をお知らせください。

①氏名 ②電話番号 ③疾患名 ④会員 or 一般 ⑤在住都道府県 ⑥参加人数

▶電話：03-5982-2150 (祝日を除く火・木・金 10時~16時)

▶メール：seiky@tokankai.com (QRコードから送信できます)



# B型肝炎 交流会のお知らせ

対面での交流会になります

気軽にお話ししましょう♪

2025年 **10月4日(土)** 14時～16時

**対象** B型肝炎の患者・ご家族の方ぜひご参加ください。

**場所** 東京都健康プラザハイジア4F 会議室

**住所** 東京都新宿区歌舞伎町2-44-1

**申込方法**  **03-5982-2150** 及び  **03-5982-2151**

(電話 火・木・金 10:00～16:00)

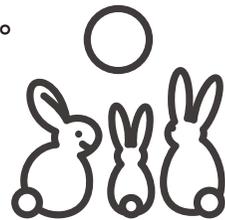
または下記メール宛てお申し込みください。

**申込め切** 9月27日(土)

① お名前 ② 電話番号 ③ 10/4 交流会参加希望

①②③を明記の上、**kanzou@tokankai.com** までご連絡ください。

折り返し、ご案内のメールをお送りします。



## ◆八王子肝友会

「何でも語ろう会」

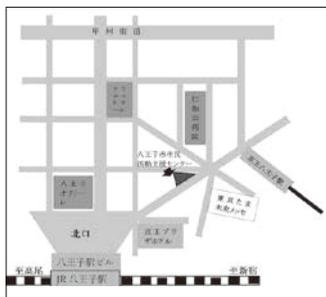
出席者の近況や治療・薬剤等についての情報交換を行います。

日時 10月12日(日) 10:15～12:00

場所

八王子市民活動支援センター 会議室

八王子市旭町1-1 ファルマ802ビル5F



JR中央線  
八王子駅北口 徒歩約5分

京王線  
京王八王子駅中央口 徒歩約3分

参加 Zoomでオンライン参加が可能です。

申込 不要(ただし、オンライン参加の場合のみ申込み要)

参加費 無料

URL <https://kanyukai802.blog.jp/>

(図の2次元コードで検索も可)

問合せ 事務局 東ひがし陽一

✉ [yhigashi@jcom.zaq.ne.jp](mailto:yhigashi@jcom.zaq.ne.jp)

ne.jp



情報

BOX

# 同病者による面談相談

☆肝臓病のこと、生活のこと、なんでも お気軽にご相談ください☆

日時: **9月30日(火) 10月30日(木)**

13時30分～16時30分 (1人1時間)

場所: 東京都障害者福祉会館1階 相談室

対象: 東京都在住、在勤の方優先

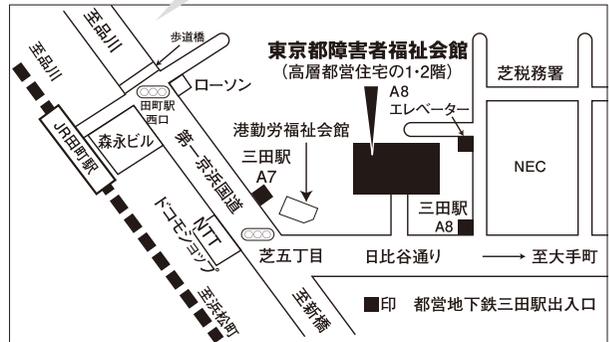
主催: 東京都

相談料: 無料(予約制)

相談員: 米澤敦子(東京肝臓友の会 事務局長)

## 【交通案内】

- ◆JR「田町駅」西口徒歩5分
- ◆都営三田線「三田駅」出口A8 徒歩1分
- ◆都営浅草線「三田駅」出口A7 徒歩1分



## 申込方法

※電話でお申し込みください。

【申込先】都障害者福祉会館相談係

〒108-0014 港区芝5-18-2

☎ 03 (3455) 6321



みや かわ のえ こ  
(公財)宮川庚子記念研究財団 主催

参加無料  
定員10名  
(要予約)

肝疾患患者さんとご家族のための

## 小規模な相談会を含めた講演会

2025年 **10月19日(日)** 13:00～15:00

### ウイルス肝炎と脂肪性肝疾患 —最近の話題—

講師: **四柳 宏** 先生 東京大学医科学研究所 先端医療研究センター感染症分野 教授  
国立健康危機管理研究機構 理事

会場: 公益財団法人 **宮川庚子記念研究財団**

〒107-0062 東京都港区南青山 2-19-8 Tel 03-5414-8581

申込方法: 財団ホームページ(<https://mmrf.jp>)で10月初旬案内予定

本会報掲載の記事を転載する場合はご連絡ください。